

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 特許公報 (B2)

(11)特許番号

特許第3410813号

(P3410813)

(45)発行日 平成15年5月26日 (2003.5.26)

(24)登録日 平成15年3月20日 (2003.3.20)

(51) Int.Cl.
H 01 L 21/027
G 02 B 5/04
G 03 F 7/20

識別記号
5 2 1

F I
G 02 B 5/04
G 03 F 7/20
H 01 L 21/30

A
5 2 1
5 1 5 D

請求項の数 8 (全 7 頁)

(21)出願番号 特願平6-100887
(22)出願日 平成6年5月16日 (1994.5.16)
(65)公開番号 特開平7-307273
(43)公開日 平成7年11月21日 (1995.11.21)
審査請求日 平成13年4月20日 (2001.4.20)

(73)特許権者 000115728
リコー光学株式会社
岩手県花巻市大畠第10地割109番地
(72)発明者 高橋 靖
岩手県花巻市大畠第10地割109番地・リ
コー光学株式会社内
(74)代理人 100067873
弁理士 横山 亨 (外1名)

審査官 新井 重雄

(56)参考文献 特開 昭62-118304 (JP, A)
特開 昭62-175087 (JP, A)
特開 昭63-163330 (JP, A)
特開 昭64-6935 (JP, A)

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 オプチカル・ホモジナイザー

1
(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】板状透明体の片面に、短冊状のプリズム面を、長手方向に直交する方向へ密接して配列し、各プリズム面の傾きを、配列中央部から配列方向両側へ向かって、対称的に漸次増加するように定めることによりプリズム面アレイとなし、このプリズム面アレイに入射する光束を、プリズム面配列方向において、光束光軸上の所定の領域に集光する機能を持つことを特徴とする、1次元のオプチカル・ホモジナイザー。

【請求項2】請求項1記載のオプチカル・ホモジナイザーを2個、プリズム面アレイにおけるプリズム面の配列方向が互いに交わるようにして、入射光軸方向に前後するように配備され、

入射する光束を、光束光軸上の所定の領域に集光する機

能を持つことを特徴とする、2次元のオプチカル・ホモジナイザー。

【請求項3】板状透明体の片面に、短冊状のプリズム面を、長手方向に直交する方向へ密接して配列し、各プリズム面の傾きを、配列中央部から配列方向両側へ向かって、対称的に漸次増加するように定めて形成して第1のプリズム面アレイとし、上記板状透明体の他方の面に、上記第1のプリズム面アレイと同様の第2のプリズム面アレイを、プリズム面の配列方向が、上記第1のプリズム面アレイにおけるプリズム面配列方向と交わるように形成してなり、入射する光束を、光束光軸上の所定の領域に集光する機能を持つことを特徴とする、2次元のオプチカル・ホモジナイザー。

【請求項4】請求項2または3記載のオプチカル・ホモ

10

ジナイザー。

3
ジナイザーにおいて、

2つのプリズム面アレイにおけるプリズム面配列方向が
略直交していることを特徴とする2次元のオプチカル・
ホモジナイザー。

【請求項5】請求項1または2または3または4記載の
オプチカル・ホモジナイザーにおいて、
板状透明体が、 SiO_2 の板であることを特徴とするオ
プチカル・ホモジナイザー。

【請求項6】請求項1または2または3または4または
5記載のオプチカル・ホモジナイザーと、これらによる
光束集光位置の像を拡大する拡大光学系とを有すること
を特徴とするオプチカル・ホモジナイザー。

【請求項7】請求項1または2または3または4または
5または6記載のオプチカル・ホモジナイザーにおい
て、
プリズム面アレイが、板状透明体の表面に形成されたフ
オトレジスト層に、プリズム面アレイに応じた形状をバ
ターニングし、バターニングされた形状を異方性のエッ
チングにより板状透明体に彫り写すことにより形成され
ていることを特徴とするオプチカル・ホモジナイザー。

【請求項8】請求項1または2または3または4または
5または6記載のオプチカル・ホモジナイザーにおい
て、
プリズム面アレイが、プリズム面アレイに応じた型形状
を有する型と、板状透明体の表面とにより硬化性樹脂を
挟んで、光及び／又は熱により硬化させることにより硬
化性樹脂の表面に形成される形状をエッチングにより透
明基板に彫り写すことにより形成されていることを特徴
とするオプチカル・ホモジナイザー。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明はオプチカル・ホモジナ
イザーに関する。この発明のオプチカル・ホモジナイザ
ーは、フォトリソグラフィの露光用光源や、液晶プロジェ
クタの液晶用光源として利用できる。

【0002】

【従来の技術】半導体ICの製造に於て、「マスクにより
IC回路パターンをウエハに露光する」場合や、液晶
プロジェクタに於て、「液晶を照明して液晶上の画像を
スクリーン上に投影する」場合等には、一定の面積領域
を均一な強度の光で照明する必要が生じる。

【0003】一般に、光源側からの光束は、その光束断
面上の光強度が均一な場合は稀であり、通常は、何等か
の強度分布を伴っている。このため、一定の面積領域を
均一な強度分布の光で照射するには、光源側からの光束
の強度分布を均一化（ホモジナイズ）する必要があり、
これを実行する光学素子を「オプチカル・ホモジナイザ
ー」と呼ぶ。

【0004】オプチカル・ホモジナイザーは、従来から
種々のものが知られているが、中でも実用的と思われる

ものは、特開平3-16114号公報に開示された、
「互いに等価な小径レンズ（エレメントレンズ）を多
数、互いに稠密に組み合わせ、押圧力により相互間を不
動としてレンズ群（フライアイレンズ）とし、このレン
ズ群に光源側からの光束を平行光束化して入射させ、各
小径レンズにより集光した光束が、発散しつつコンデン
サーレンズに入射するようにし、コンデンサーレンズに
より、各小径レンズからの光束を平行光束化しつつ、所
望の面積領域に照射するように構成した」ものであ
る。

10

【0005】この場合、精度の悪いエレメントレンズが
あると、エレメントレンズを互いに稠密に組み合わせる
ことができないため、エレメントレンズはプリズムに必
要とされるような高い精度で形成する必要があり、レン
ズ群の形成に際しては、エレメントレンズ群を組み合
せつつ、精度の悪いエレメントレンズを、精度の良いエ
レメントレンズで置き換えて組み合わせており、レンズ
群の形成作業が面倒であり、レンズ群の製造コストの低
減が困難であるという問題がある。

20

【0006】

【発明が解決しようとする課題】この発明は上述した事
情に鑑みてなされたものであって、容易且つ安価な製造
が可能である、新規なオプチカル・ホモジナイザーの提
供を目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】請求項1記載のオプチカ
ル・ホモジナイザーは1次元のオプチカル・ホモジナイ
ザーであって、板状透明体の片面にプリズム面アレイを
形成してなる。

30

【0008】「プリズム面アレイ」は、短冊状のプリズ
ム面を、長手方向に直交する方向へ密接して配列し、各
プリズム面の傾きを、配列中央部から配列方向両側へ向
かって、対称的に漸次増加するように定めたものであ
る。

【0009】請求項1記載の、1次元のオプチカル・ホ
モジナイザーは「プリズム面アレイに入射する光束を、
プリズム面配列方向において、光束光軸上の所定の領域
に集光」する機能を持つ。

40

【0010】請求項2記載のオプチカル・ホモジナイザ
ーは「2次元のオプチカル・ホモジナイザー」であ
って、請求項1記載の「1次元のオプチカル・ホモジナイ
ザー」を2個、「プリズム面アレイにおけるプリズム面
の配列方向が互いに交わる」ようにして、入射光軸方向
に前後するように配備し、「入射する光束を、光束光軸
上の所定の領域に集光する機能を持つ」ように構成した
ものである。

50

【0011】請求項3記載のオプチカル・ホモジナイザ
ーは「2次元のオプチカルホモジナイザー」であって、
板状透明体の片面に、第1のプリズム面アレイ、他方の
面に第2のプリズム面アレイを形成したものである。

【0012】第1および第2のプリズム面アレイは、請求項1記載の1次元のオプチカル・ホモジナイザーのプリズム面アレイと同様に、「短冊状のプリズム面を、長手方向に直交する方向へ密接して配列し、各プリズム面の傾きを、配列中央部から配列方向両側へ向かって、対称的に漸次増加するように定めた」ものであるが、第1および第2のプリズム面アレイは、プリズム面の配列方向が互いに交わるように形成されるのである。

【0013】請求項3記載のオプチカル・ホモジナイザーも、「入射する光束を、光束光軸上の所定の領域に集光する機能」を持つ。

【0014】上記請求項2、3記載のオプチカル・ホモジナイザーにおいては、2つのプリズム面アレイが組み合わせられるが、これら2つのプリズム面アレイは、同一のものでも良いし、互いに異なっていても良い。

【0015】また、請求項2または3記載の「2次元のオプチカル・ホモジナイザー」において、2つのプリズム面アレイにおけるプリズム面配列方向は、勿論、互いに略直交させることができる（請求項4）。

【0016】上記1次元または2次元のオプチカル・ホモジナイザーにおいて、プリズム面アレイを形成する「板状透明体」として「SiO₂の板」を用いることができる（請求項5）。

【0017】なお、上記「光軸上の所定の領域」とは、所定の位置で光軸に直交する面積領域の場合もあるし、光軸方向にある程度の幅を持った領域であることもある。

【0018】プリズム面アレイを形成する板状透明体の両面（プリズム面アレイが形成される以前の）は互いに平行でも、非平行でも良い。また、上記請求項1～5記載のオプチカル・ホモジナイザーに入射させる光束（ホモジナイズされるべき光束）は平行光束でもよいし、発散性でも、収束性でもよい。これら、入射光束の形態に応じて、適切なオプチカル・ホモジナイザーを設計できる。

【0019】さらに、上記請求項1～5記載の任意のオプチカル・ホモジナイザーと、これらによる光束集光位置の像を拡大する「拡大光学系」とを組み合わせて別のオプチカル・ホモジナイザーを構成することもできる（請求項6）。

【0020】請求項1～6記載の任意のオプチカル・ホモジナイザーにおいて、「プリズム面アレイ」は、板状透明体の表面に形成されたフォトレジスト層に、プリズム面アレイに応じた形状をパターニングし、パターニングされた形状を異方性のエッチングにより板状透明体に彫り写すことにより形成することができ（請求項7）、あるいは「プリズム面アレイに応じた型形状を有する型と、板状透明体の表面とにより硬化性樹脂を挟んで、光及び／又は熱により硬化させることにより硬化性樹脂の表面に形成される形状をエッチングにより透明基板に彫

り写す」ことにより、プリズム面アレイを形成することができる（請求項8）。

【0021】プリズム面アレイにおけるプリズム面の幅は、1mm～数mm程度が好適である。板状透明体には、同一もしくは異なる2以上のプリズム面アレイを連設してもよい。

【0022】

【作用】上記のように、この発明のオプチカル・ホモジナイザーは、1以上のプリズム面アレイを用いている。

10 10 プリズム面アレイにおける各プリズム面の傾きは、配列中央部から配列方向両側へ向かって、対称的に漸次増加するように定められているから、プリズム面により屈折された光束は、プリズム面アレイにおけるプリズム面の配列中央の側へ偏向されることになり、偏向角は、プリズム面位置が配列中央部を離れるほど大きくなる。

【0023】従って、各プリズム面により偏向させた光束同志を合流させることにより、合流部に光強度が均一な領域を実現できる。

【0024】板状透明体の材料として、請求項5記載のオプチカル・ホモジナイザーのように、SiO₂を用いると、紫外光束に対しても、ホモジナイズ効果を得ることができる。

【0025】

【実施例】以下、実施例を説明する。図1は、請求項1記載の「1次元のオプチカル・ホモジナイザー」の1実施例を説明するための図である。

【0026】図1(a)において、符号10は1次元のオプチカル・ホモジナイザーを示している。オプチカル・ホモジナイザー10は、板状透明体である透明平行平板の片面に、プリズム面P₀、P₁、P₂、…P_i…を、図の上下方向へアレイ配列してプリズム面アレイを形成したものである。

【0027】各プリズム面P_i (i = 0, 1, 2, …) は図面に直交する方向を長手方向とする短冊状である。プリズム面の配列中央部のプリズム面P₀は、傾きが0であり、その両側（図の上下方向）へ向って中央部から離れるほど、プリズム面の傾きが大きくなっている。

【0028】図1(a)に示すように、ホモジナイズさるべき入射光束LFは、平行光束としてプリズム面アレイの全面にわたって、オプチカル・ホモジナイザー10に直交的に入射するが、光束LFのうち、プリズム面P₀に入射する光束部分（光束断面形状が図面に直交する方向へ長い短冊状の平行光束である）を光束f₀とし、任意のプリズム面P_iに入射する光束部分を光束f_iとする。

【0029】プリズム面P₀は傾きを持たないから、光束f₀は、オプチカル・ホモジナイザー10を、そのまま透過する。一方、プリズム面P_iは傾き角があるため、屈折により光束f_iを偏向させる。偏向された光束

f_i は、面 S の位置において、光束 f_0 と合流する。

【0030】図のように、オプチカル・ホモジナイザー 10 から面 S までの距離を L 、プリズム面 P_0 と P_i との距離を h_i とする。

【0031】図 1 (b) は、プリズム面 P_i に入射した光束 f_i が、オプチカル・ホモジナイザー 10 により、偏向角: θ_i だけ偏向された様子を示している。プリズム面 P_i の傾き角を図示のように「 α_i 」とすると、偏向角: θ_i は、傾き角: α_i と板状透明体の屈折率の関数であり、傾き角: α_i に対し比例的に変化する。即ち、傾き角: α_i が定まると偏向角: θ_i が決まるので、この関係を「 $\theta_i(\alpha_i)$ 」と書くことができる。

【0032】なお、平行光束をオプチカル・ホモジナイザーの平面側から入射させれば、各プリズム面による屈折角が、そのまま偏向角になる。

【0033】さて、任意のプリズム面 P_i に入射した光束 f_i が全て、面 S 上で光束 f_0 に合流するには、偏向角: $\theta_i(\alpha_i)$ が、関係:

$$\theta_i(\alpha_i) = \tan^{-1}(h_i/L)$$

を満足すればよい。この関係が満足するように、プリズム面 P_i ($i = 1, 2, 3, \dots$) の傾き角: α_i を設定すれば、オプチカル・ホモジナイザー 10 に入射した平行光束 L_F は全て、面 S 上で合流することになる。

【0034】今、入射光束 L_F における光強度分布を $F(x, y)$ とし、図 1 (a) において図面に直交する方向を x 方向、図の上下方向を y 方向とする。 $F(x, y)$ は y 方向において、プリズム面の幅: Δ の範囲内では一様と見做せる程度に緩やかな変化である（一般的な状況である）とすると、プリズム面 P_i における光束 f_i の強度分布は、 $F(x, h_i)$ となるから、面 S における光束合流部での光強度分布は、 $\Sigma F(x, h_i)$ （和は i に就き、全てのプリズム面に就いてとる）となり、 y 方向には一様となる。

【0035】また、 $F(x, y)$ が x に関して「顕著な規則性」を持たなければ、光束 f_i が合流される状態で、各光束 f_i の x 方向の変化が平均されるので、 X 方向においても合流部における光強度が均一化する場合が多い。特に、1 次元 LED アレイからの光のように、1 方向に均一な光強度を持つ光束を平行光束化してホモジナイズするような場合、LED の配列方向を上記 x 方向に対応させれば、面 S 上の光束合流部（図 1 (a) の図面に直交する方向に長い短冊状の領域）で、光強度は至る所均一化される。

【0036】また、プリズム面配列に於ける中央部のプリズム面 P_0 に關し、対称の位置にあるプリズム面の対ごとに、光束 f_0 との合流位置を、光束 f_0 の光軸方向へ、少しづつずらすと「光軸方向における有限領域」で、実質的に光強度分布が均一な状態（上記領域内で、光軸に直交する任意の面上において光強度が均一である）を実現できる。

【0037】図 2 (a) は、請求項 2、4 記載の「2 次元のオプチカル・ホモジナイザー」の実施例を示している。符号 13, 15 は、1 次元のオプチカル・ホモジナイザーを示す。これらの 1 次元のオプチカル・ホモジナイザー 13, 15 は、それぞれ、図 1 の実施例で説明したオプチカル・ホモジナイザー 10 と同様のもので、平行平板である板状透明体の片面に、プリズム面アレイが形成されている。

【0038】1 次元のオプチカル・ホモジナイザー 13, 15 を、プリズム面アレイにおけるプリズム面配列方が互いに略直交するようにして、入射光束 L_F の光束光軸方向に前後して配備されることにより、2 次元のオプチカル・ホモジナイザーを構成している。

【0039】図示のように、入射光束 L_F を平行光束として、1 次元のオプチカル・ホモジナイザー 13 に入射させると、光束は一方向的に集光しつつ 1 次元のオプチカル・ホモジナイザー 15 に入射し、上記集光方向と直交する方向へ集光し、入射光束 L_F の光軸上の所定の位置において、面積領域 17 にて合流する。

【0040】1 次元のオプチカル・ホモジナイザー 15 において、中央のプリズム面から数えて j 番目のプリズム面の、上記中央のプリズム面からの距離を「 g_j 」とし、1 次元のオプチカル・ホモジナイザー 13, 15 のプリズム面配列方向をそれぞれ y, x 方向とし、入射光軸の光強度分布を前述の $F(x, y)$ として前述の説明を適用すれば、2 次元のオプチカル・ホモジナイザーのホモジナイズ作用により、面積領域 17 における光強度は、 $\Sigma \Sigma F(g_j, h_i)$ （和は、全ての i, j に就きとする）となり、均一な強度になる。

【0041】1 次元のオプチカル・ホモジナイザー 13, 15 のプリズム面アレイにおけるプリズム幅が小さくなるほど「光強度の均一度」は高くなり、光強度は $[\int \int F(x, y) dx dy]$ に近づく。

【0042】図 2 (b) は、請求項 3、4 記載の「2 次元のオプチカル・ホモジナイザー」の 1 実施例を示している。このオプチカル・ホモジナイザー 20 は、平行平板状の板状透明体の両面に、プリズム面アレイを、プリズム面配列方向が互いに略直交するように形成したものである。このオプチカル・ホモジナイザー 20 が、図 2 (a) の 2 次元のオプチカル・ホモジナイザーと同様の作用を有することは容易に理解されるであろう。

【0043】1 次元のオプチカル・ホモジナイザーでは、入射光束は、光束光軸上の所定位置を「スリット状」に照射することになり、このスリット状の非照明部の幅は、プリズム面アレイにおけるプリズム面の幅に等しい。また、図 2 の 2 種の 2 次元のオプチカル・ホモジナイザーでは、均一照射される面積領域（図 2 (a) で符号 17 で示す部分）は「矩形状」で、その大きさは 2 種のプリズム面アレイのプリズム幅により定まる。

【0044】プリズム面の幅を大きくすれば、照明部の

幅（1次元オプチカル・ホモジナイザーの場合）や矩形状の面積領域（2次元オプチカル・ホモジナイザーの場合）を大きくできるが、これらを大きくするほど、ホモジナイズの効果は低下し、光強度の均一度は低くなる。

【0045】従って、均一な光強度が必要とされるほど、照明部の幅や大きさは小さくなることになる。このような場合には、図2に示すようにオプチカル・ホモジナイザー30（図1における1次元のオプチカル・ホモジナイザー10や、図2における2次元のオプチカル・ホモジナイザー20を説明図的に簡略化して描いている）の後方に拡大光学系31を置き、オプチカル・ホモジナイザー30による光束集光位置33の像を拡大して、所望の照明部32に結像させればよい（請求項6）。

【0046】オプチカル・ホモジナイザー30が1次元のオプチカル・ホモジナイザーの場合は、拡大光学系31はシリンドレンズを組み合わせて構成できる。

【0047】以上、入射光束として平行光束を用いる場合を説明したが、入射光束が発散性でも収束性でも必要な性能を持ったオプチカル・ホモジナイザーを設計できる。また、2次元のオプチカル・ホモジナイザーにおける2つのプリズム面アレイの配列方向は、上記実施例では、互いに略直交するようにしたが、必ずしも相互に直交させる必要はなく、相互に、例えば45度とか60度とかいう角度で交わるようにしてよい。

【0048】以下は、請求項7、8記載の発明の実施例を説明する。

【0049】図4は、請求項7記載のオプチカル・ホモジナイザーの1実施例の特徴部分を説明するための図である。

【0050】図4（a）において、符号1で示す板状透明体の表面には、ポジ型のフォトレジスト3の層が形成されている。フォトレジスト3の層の上にマスク5を密着させ、マスク5を介して均一光を照射して、フォトレジスト3の層を露光する。

【0051】マスク5は図の左右方向へ、図4（b）に示すような光透過率分布を持つように形成され、図面に直交する方向へは、図4（b）の光透過率分布が均一に続いている。

【0052】露光後、光照射されたフォトレジスト3を除去し、ポストキュアした状態が、図4（c）に示された状態である。フォトレジスト3の表面は、断面形状が鋸歯状の凹凸となっている。

【0053】この状態から、異方性のエッチングを行い、フォトレジスト3の表面形状を板状透明体1の表面に彫り写すと、プリズム面アレイを板状透明体1の表面形状として形成できる（図4（d））。このようにしてプリズム面アレイを形成された板状透明体1は、図1（a）や図2（a）に示す、1次元のオプチカル・ホモジナイザー10、13、15として使用できる。

【0054】また、板状透明体1の反対側の面に、上記と同様にして、プリズム面アレイを、別面のプリズム面アレイのプリズム配列方向と直交するように形成すれば、図2（b）に示す2次元のオプチカル・ホモジナイザーを実現できる。

【0055】図5は、請求項8記載のオプチカル・ホモジナイザーの1実施例の特徴部分を説明するための図である。

【0056】図5（a）において、符号2で示す「板状透明体」は、 SiO_2 により形成されている。符号4で示す「型」には、所望のプリズム面アレイに対応した形状が形成されている。

【0057】図5（a）に示すように、板状透明体2の表面と型4とにより「硬化性樹脂」である紫外線硬化樹脂6を挟み、板状透明体2を介して均一紫外光を照射して、紫外線硬化樹脂6を硬化させる。

【0058】硬化後、型4を外すと、図5（b）に示すように、板状透明体2の表面に、硬化した紫外線硬化樹脂6が固着した状態が得られる。紫外線硬化樹脂6の表面には、型4から所望のプリズム面アレイの形状が転写されている。

【0059】この状態から、異方性のエッチングを行い、紫外線硬化樹脂6の表面形状を板状透明体2の表面に彫り写すと、プリズム面アレイを板状透明体2の表面形状として形成できる（図5（c））。このようにしてプリズム面アレイを形成された板状透明体2は、図1（a）や図2（a）に示す、1次元のオプチカル・ホモジナイザー10、13、15として使用できる。

【0060】また、板状透明体2の反対側の面に、上記と同様にして、プリズム面アレイを、別面のプリズム面アレイのプリズム配列方向と直交するように形成すれば、図2（b）に示す2次元のオプチカル・ホモジナイザーを実現できる。

【0061】なお、図4、図5の実施例において、異方性のエッチングの選択比を1とすれば、フォトレジスト3や紫外線硬化樹脂6の表面に形成された形状を、合同的に、板状透明体の表面形状として彫り写せるが、選択比を変えることにより、彫り写される形状の高さとフォトレジストや紫外線硬化樹脂の表面形状の高さの比を、所望の値に調整できる。

【0062】

【発明の効果】以上に説明したように、この発明によれば新規なオプチカル・ホモジナイザーを提供できる（請求項1～8）。この発明のオプチカル・ホモジナイザーは、上記の如く、板状透明体にプリズム面アレイを形成した構成であるから、容易且つ安価な製造が可能である。

【図面の簡単な説明】

【図1】請求項1記載の1次元のオプチカル・ホモジナイザーの1実施例を説明するための図である。

11

【図2】請求項2, 3, 4記載の2次元のオプチカル・ホモジナイザーの実施例を説明するための図である。

【図3】請求項6記載のオプチカル・ホモジナイザーの実施例を説明するための図である。

【図4】請求項7記載のオプチカル・ホモジナイザーの実施例の特徴部を説明するための図である。

12

【図5】請求項8記載のオプチカル・ホモジナイザーの実施例の特徴部を説明するための図である。

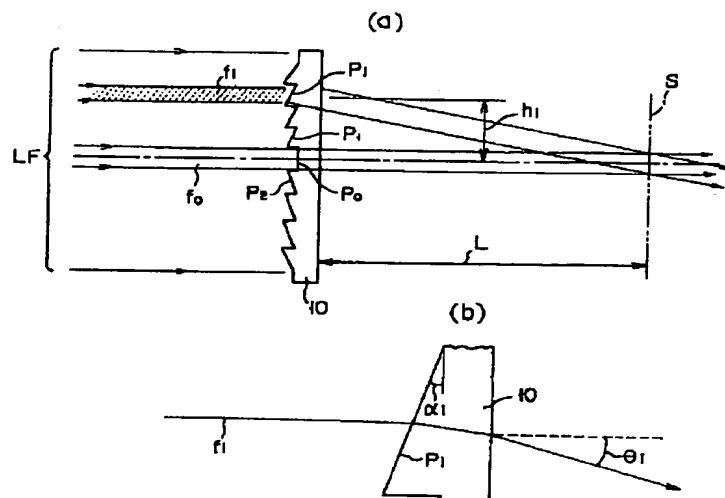
【符号の説明】

10 1次元のオプチカル・ホモジナイザー

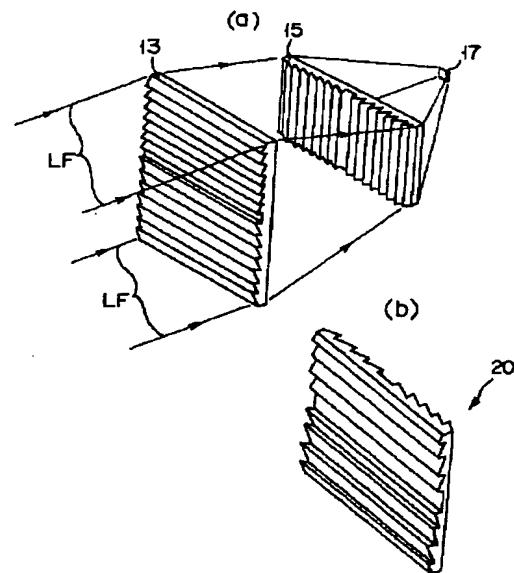
P: ブリズム面

S: ブリズム面により偏向された光束が合流する面

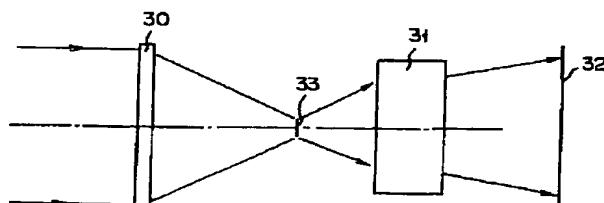
【図1】



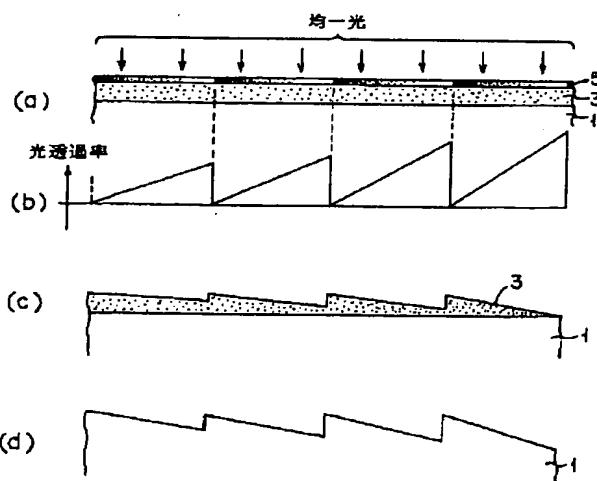
【図2】



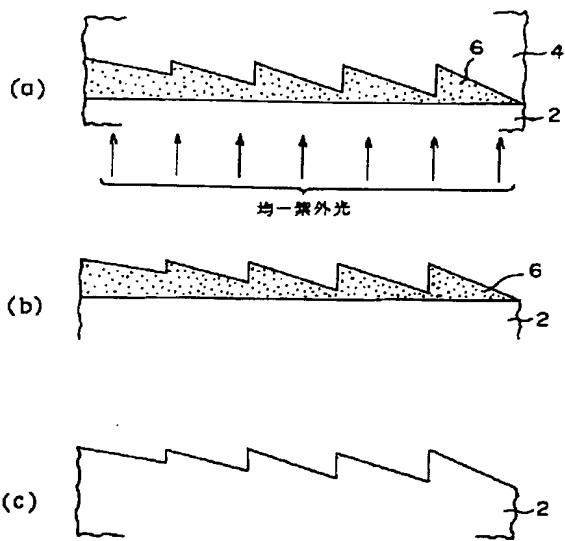
【図3】



【図4】



【図5】



フロントページの続き

(58) 調査した分野(Int. Cl. 7, DB名)

H01L 21/027

G03F 7/20 521

G02B 5/04